

風土記の丘の花だより²⁵⁸

今、そしてこれから見られる植物(2024年10月26日)

ニシキハギやツクシハギの花がほぼ終わりました。秋の深まりを感じます。前山地区ではワレモコウが咲いていると聞きました。もう、真夏日はないと思うのですが、どうでしょう。



谷山家の庭でタイワンホトトギスが見頃を迎えています。薄紫色の花びらには斑点があって、少し不気味に感じる方もおられるそうですが、さて、いかがでしょうか。よくホトトギスと呼ばれますが、タイワンホトトギスといわれているものの中には、いろいろ交配された品種もあるみたいで、これが本来のタイワンホトトギスかといわれると、「はて？」です。茎の先に枝分かれするようにたくさんの花を付けるのが特徴です。チョット郊外の野山にいけば、セトウチホトトギスという可憐な花も見ることができます。



花の一部分をこんなにクローズアップしたら、何の花かわからないかも知れませんが、みなさんよくご存じのセイタカアワダチソウです。数十年前は休耕田を真っ黄色に染めていましたが、最近は少なくなりました。と言ってもたくさん生えていますよね。よく喘息の元凶と言われましたが、写真でもお分かりのように、この花は虫媒花、風で花粉を飛ばす事はありません。とんだ濡れ衣を着せられたものです。



初夏に白い花を咲かせていたガマズミに真っ赤な実ができています。昔、試しに食べてみるととても酸っぱかったの、それ以来、口にしていません。株にもよりますが、赤い実の中に、一回り大きくて、薄緑色の丸い物が付いていることがあります。これは虫こぶです。虫こぶは「ちゅうえい」ともいいます。ハエなどの小さな虫が卵を産み付けるなどの刺激を加えると、そこだけ組織が異常に膨らみます。これはガマズミミケフシタマバエという虫が作ったものです。自然は本当に不思議がいっぱいですね。



ヨメナの花が咲いています。写真では白っぽく写っていますが、実際はきれいな薄紫色です。この植物は花びらの形や葉のギザギザなどに変異が多く、それに注目していろいろな花を見るのも楽しいものです。漢字で書くと「嫁菜」です。どうしてお嫁さんの菜っ葉かは知りませんが、「婿菜・むこな」というのもあるので面白いです。婿菜の本当の名前はシラヤマギクですが、今年はまだ風土記の丘で花を見ていません。

松下